

団体名	社会福祉法人 のぞみ福祉会
活動テーマ	精神障がい者に寄り添った地域防災ガイドブックの作成



7月のワークショップの様子



グループワークで意見を出し合う



避難所体験



神戸バスツアーでの炊き出し

1年間を通じて、防災というテーマでいろいろな立場の人と関わりを持つことができたことが何よりの成果である。7月、9月、11月と続けたワークショップには、毎回40～50名の参加をいただいた。講演を聞くだけでなく、小グループでそれぞれが感じたことを話し合う場を設けたり、実際に体験できるプログラムを企画したことによって、参加者同士が自然な形で交流することができた。また、12月の神戸バスツアーには35名の参加があった。実際に被災した地域を訪れ、避難生活を体験された精神障がい当事者の体験談を聞かさせていただいて、吹田でこれからどんな備えをしなければならないか、改めて考えさせられた。障がいを持っている当事者の立場、地域を守る自治会の方々の立場、行政の立場、それぞれの立場の意見をお互いに聞きあい、今後さらに理解を深めていくきっかけを作ることができた。また、行政の方に企画段階から深く関わっていただいたことで、現時点での吹田市の防災対策について詳しく知ることができたことも本当に良かった。支援者の立場として、自分が日常的に支援している障がい者の方々の状況と吹田市の現状を照らし合わせて防災対策を考えることができ、またそのことを多くの皆さんと共有できた。プログラムを進めながら、障がい当事者、地域住民それぞれの立場から吹田市の防災担当者に直接意見を言うことができていたのも、これまでになく画期的なことだったように思う。「精神障がい者特有のしんどさ」という視点について、地域の方に理解していただけたかということ、まだ不十分な部分はある。しかし今回は「まず出会った」ということを大切にしていきたい。今回だけの企画で終わるのではなく、取り組みを継続し、目的である「精神障がい者に寄り添った防災ガイドブック」の作成を進めることで、誰もが安心して暮らせる街づくりに寄与していきたい。